

指標 16.1.3

指標名、ターゲット及びゴール

指標 16.1.3 過去 12 か月において(a) 身体的暴力、(b) 精神的暴力、(c) 性的暴力を受けた人口の割合

ターゲット 16.1 あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。

ゴール 16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

定義及び根拠

○ 定義

調査実施年の前年に暴行又は脅迫の被害に遭った者の割合及び性的な被害に遭った者の割合

○ 概念

「暴行又は脅迫の被害」：第 4 回犯罪被害実態（暗数）調査問 18 で「暴行の被害」と題して調査対象とした犯罪被害のこと。

「性的な被害」同調査問 19 で「性的な被害」と題して調査対象とした犯罪被害のこと。

○ 根拠及び解釈

第 4 回犯罪被害実態（暗数）調査は全国から無作為抽出により選んだ 16 歳以上の男女 4,000 人を調査対象としていること、また、対象とした暴力被害に遭った者の割合が低いことは、ターゲットの達成に大きく影響するものであると考えられることから、本指標はターゲットの測定に適していると言える。

データソース及び収集方法

第 4 回犯罪被害実態（暗数）調査：平成 24 年に調査実施

算出方法及びその他の方法論的考察

○ 算出方法

・「あなたは、自宅又はその他の場所で、本当に恐ろしいと感じるような暴行や脅迫を受けたことがありましたか。性的暴力は含めないでください。」という趣旨の質問に対して、「ある」又は「ない」の選択肢を選んだ者のうち、「ある」と回答し、かつ、「その被害に遭われたのはいつでしたか」という質問に対し、「昨年」と回答したもの

・「あなたは性的な被害に遭われたことがありますか。職場での性的な嫌が

らせや家庭内における性的暴行も含めて考えてください。ただし、言葉による性的な嫌がらせは含めません。」という趣旨の質問に対して、「ある」又は「ない」の選択肢を選んだ者のうち、「ある」と回答し、かつ、「その被害に遭われたのはいつでしたか」という質問に対し、「昨年」と回答したもの

○ コメントと限界

第4回犯罪被害実態（暗数）調査は、全国から無作為抽出により選んだ16歳以上の男女4,000人を調査対象として郵送調査を実施した結果、2,156人から回答が得られたものである。

上記「概念」に記載した問18について、同調査で同問より前に質問した犯罪被害（自転車盗、バイク盗、自動車盗、車上盗、自動車損壊、不法侵入、不法侵入未遂、強盗等及び個人に対する窃盗）において暴行・脅迫があった場合、その暴行・脅迫は含まれていない。

上記「概念」に記載した問19には、痴漢やセクハラなどが含まれているところ、「昨年」と回答した者の内訳として、性的な被害の種類を明らかにする分析はしていない。

データの詳細集計

なし

参考

- ・法務省ウェブサイト（「研究部報告49 犯罪被害に関する総合的研究 – 安全・安心な社会づくりのための基礎調査結果（第4回犯罪被害実態（暗数）調査結果） – 2013」

http://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00066

- ・政府統計の総合窓口（e-stat）（第4回犯罪被害実態（暗数）調査 – 安全・安心な社会づくりのための基礎調査結果 – ）

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&oukei=00250013&tstat=000001118198&cycle=0&year=20120&month=0>

データ提供府省

法務省法務総合研究所

関連政策府省

警察庁、法務省

担当国際機関

国連薬物・犯罪事務所（UNODC）